

2014年度 大学英語教育学会(JACET)関西支部春季大会

2014年6月14日(土) 大阪薬科大学

【基調講演】

斎藤兆史氏（東京大学）「朱牟田夏雄の英語教育論と JACET の原点—『教養』英語再考」

概要：JACET の初代会長を務めた朱牟田夏雄先生は、『トム・ショウズ』や『トリストラム・シャンディ』の名訳で知られる英文学者だが、長らく東京大学教養学部で英語を教え、また英語教育に関する論者をいくつか残している。また、先生の後輩や教え子から聞いた話では、英語教師の中でも圧倒的に英語のできる教師であつたらしい。拙話では、実用コミュニケーション中心主義を奉じてきた英語教育に対する反省の意味も込め、朱牟田先生の英語教育論に立ち返ってみたい。

講師紹介：栃木県宇都宮市出身。東京大学文学部卒業、同大学院人文科学研究科修士課程修了。インディアナ大学英文科修士課程修了。ノッティンガム大学英文科博士課程修了（Ph. D）。東京大学文学部助手、東京大学教養学部専任講師、東京大学大学院総合文化研究科助教授、准教授、教授を経て、現在、東京大学大学院教育学研究科教授。専門は英語教育、英語文体論、英学。著書に『英語達人列伝』、『英語達人塾』（以上、中央公論新社）、『英語の作法』、『翻訳の作法』（以上、東京大学出版会）、『英語の味わい方』、『英文法の論理』（以上、NHK 出版）、『日本人と英語』（研究社）、『教養のカ——東大駒場で学ぶこと』（集英社）、訳書にラドヤード・キプリング『少年キム』（晶文社、筑摩書房）、V・S・ナイポール『イスラム再訪』、『ある放浪者の半生』、『魔法の種』（以上、岩波書店）、『英語教育と「訳」の効用』（共訳、研究社）などがある。



【スペシャルトーク】

筒井正明氏（明治学院大学名誉教授）「英文和訳再考：『英文解釈演習室』の現場から」

概要：高校や大学での英語教育は、テキストの英文の形をその文法や構造から解説し、内容を具体例などをあげつつ思想的・情緒的・心理的・社会的に説明して、拙くとも母国語として意味の通ずる和訳文を与えることにより英文内容を母国語文化の中で理解させ、もって英文の内容を学生の精神の糧と化するものでなくてはならないと思います。（その意味で英語の授業を英語で行おうとする試みは、みずから授業の質を低めるものでしかないでしょう。）すなわち、英語の授業は内容的思想的な会得を含んで文化的に行われなくては意味がありません。長年、「英文解釈演習室」（大修館『英語教育』）を執筆し、大学で英語を教えてきた経験から、具体的な英文に即して英語の授業の在り方についてお話しさせてもらいたいと思います。

講師紹介：東京大学文学部英文学科、同大学院修士課程卒業。東京大学文学部助手、中央大学法学部講師、明治学院文学部英文学科助教授・教授を経て、現在明治学院大学名誉教授。著書：『真なる自己を求めて』（南雲堂）、『本格派のための英文解釈道場』（大修館）など。訳書：アーヴィング『ガープの世界』（新潮社）他多数



【ワークショップ】

染谷泰正氏（関西大学外国語学部教授）「英語教員のための字幕翻訳入門——『語学教育における翻訳』（Translation In Language Teaching: TILT）の実践例として」

概略：CEFR（2001）では、外国語教育で養成すべき能力として、従来の受容、産出、相互交渉の各能力に加え、新たに「仲介能力」（mediation competence）というカテゴリーを提唱し、その具体的な例として通訳・翻訳を挙げている。これを契機に、いわゆる TILT についての関心が世界的に高まってきている。本ワークショップでは、これを出発点として、「翻訳」教育がどのような点で英語教育に貢献することができるかを、字幕翻訳を例にとって具体的に説明する。目標：① TILT の理念的背景を理解する、② 「翻訳」と「和文英訳」の違いを理解するとともに、翻訳とはどのような行為であり、英語教育の目標とどのような整合性があるのかについて理解する、③ 「字幕翻訳」を授業に導入するために必要な基本的スキルを習得する。注）参加者は作業に必要なソフトウェアや映像データを収録するための USB メモリー（2GB 程度）を持参のこと。

講師紹介：青山学院大学を経て 2010 年から関西大学にて勤務。専門は通訳翻訳論、言語情報科学、英語教育。詳細は <http://someya-net.com> 参照。



JACET
The Japan Association of College English Teachers

大学英語教育学会（JACET）関西支部

事務局 〒577-8502 大阪府東大阪市小若江 3-4-1 近畿大学 理工学部 11 号館

照井雅子研究室内 URL: <http://www.jacet-kansai.org/>